

みんなの法話

親鸞さまの魅力

「弟子一人も持たず」という生き方

鎌田 宗雲師

中央仏教学院講師

後ろ姿で伝える

若き日の親鸞さまは、比叡山でのご修行中、まるで暗闇の中で生きていくような不安をかかえられてお法しだ。それが縁あって、源空(法然)聖人が説くお念仏の教えに会い、人生に一点の光を見つけ、アミダさまの光明の中に生かされて生きていくよろこびを感じていかれました。

生涯の師との出会いを、『高僧和讃』に、

曠劫多生のあひだにも
出離の強縁しらざりき

本師源空いままさずは

このたびむなしくすぎなまし
と詠まれています。

浄土真宗の教えを学んでいると、「もし、私が親鸞さまの教えにあえなかつたら、今頃はどんな生き方をしていたらろうか？」とつくづくと思うことです。

親鸞さまのご誕生をお祝い

し、浄土真宗のみ教えにあえたるこびのご法要である降誕会が、毎年ご本山では5月20、21日にとめられています。また、親鸞さまがお生まれになった日野の里にある日野誕生院では、5月19日に誕生会が営まれていきます。さて、多くの人たちは、親鸞さまのどこにひきつけられたのでしょうか。苦悩と混乱のこの世にあつて、「真実・まこと」は「弥陀の本願」であると説き、アミダさまとともに生きる人生の大切さを伝えられた親鸞さまのご生涯でした。

親鸞さまがたくさんの人を魅了した理由の一つに、『親鸞は弟子一人も持たず候ふ』という生き方があると思えます。「そのゆゑはわがはからひにて、ひとに念仏を申させ候はばこそ、弟子にても候はめ。弥陀の御もよほしにあづかつて念仏申し候ふひとを、わが弟子と申すこと、きはめたる荒涼のことなり」という信念に基づいた生き方です。

「私もあなたがたも、阿弥陀如来さまのお慈悲にもよおされて、お念仏申す身になつたのです。師匠とか弟子と違うのは、とんでもないことです」と言い放つて、お念仏

涙を流された聖人

をよるこぶ生きさまは、まるで磁石が鉄をひきつけるように多くの人々をひきつけたのです。ある先生が「親鸞さまはアミダさまを拝んでいる後ろ姿で、アミダさまに救われているよろこびを伝えた人だった」と言われたことがありますが、今でもその時に受けた感動が忘れられません。ありがたいですね。

親鸞さまが関東から京都に帰られたのが、63歳の頃でした。遠くの関東から20日ほどかけて、京都の親鸞さまを訪ねたお弟子は、長く滞在して、親鸞さまからご法話を聞いたり、著述の書写をしていったのでしよう。

このような生活を「学問せば、いよいよ如来の御本意をしり、悲願の広大のむねをも存知して」と『歎異抄』にあるのが、その様子を伝えているのでしようか。

親鸞さまのもとに集った同行は、教えを学ぶのは知識をふやすのでなく、阿弥陀如来のご本願のおいわれを知らせていただき、お慈悲の中に生きていくことをよるこんでいたのですね。

親鸞さまのお手紙をみると、多くの弟子が京都の親鸞さまを訪ねて、いろいろな苦悩を聞いてもらい、アドバイスを受けていたようです。

親鸞さまのもとで亡くなった人もありました。下野高田の覚信です。覚信は親鸞さまに面談するために京都に来る途中、重い病気にかかりました。同行の人たちは帰国して寮養するように勧めました。しかし、「どうせ死するのならば、親鸞さまのみもとで」と言い張り、親鸞さまのおそばで亡くなりました。

これは、親鸞さま常随の弟子・蓮位が、国元にいる覚信の子の慶信に送った手紙に記されています。覚信は臨終にあたつて「南無阿弥陀仏、南無無碍光如来、南無不可思議光如来ととなへ」亡くなったそうです。

この手紙を送る際、蓮位が親鸞さまの前で読み上げると「御涙をながされたまひて候ふなり」と記しています。何度読んでも感激しています。このような所に親鸞さまの魅力があるのではないでしょうか。

本願寺新報

平成29年5月20日号掲載



お墓の水道の近くにありますが

坊守が見つけた



教誓寺の坊守（お寺の奥さんのことです）は、色々な写真を撮っています。お寺の中でも、自然が見せてくれる小さな情景を、切り取って残してくれています。

草花・虫など、住職が撮ると科学雑誌用の写真みたいになるのですが、坊守のはなかなか味がある写真になっています。今日はその中から、一つご紹介します。

これは、お参りにおいでになつたら必ず通る場所にあります。今度おいでになつたら探してみてください。（見られる時期は、七月の初旬位までだと思います。）

住職より

坊守の撮った写真で何かを作ってみたくなつて、華把を作ってみました。

第一弾は「蓮シリーズ」として試作を重ねています。きれいに同じ形に切り抜くのが難しいですが、解決して量産できたら、参拝記念品として皆様に差し上げたいと思いますのでお楽しみに。



*華把 法要の中で仏様を讃談する時に花を撒くのを「散華」と言います。用いる花は、大元は生花だったのでしようが、一年を通して使える事などから、蓮の花びら

の形を紙に写して用いるようになりました。



花の中に何がいるでしょうか

お知らせ

○教誓寺維持会費について
本年度も維持会費ご納入下さり有り難うございます。皆様のご納入は順調ですが、残念ながら住所が不明になつたりして、しばらく連絡が取れなくなつています。方も少数ながら御座います。転居なさるときには、お寺へもご一報下さるようお願い致します。
これからご納入下さる方も、早めにお願ひ致します。

孟蘭盆会法要のご案内

お盆は13日からですが、たくさんの方に参り頂けるように、お盆前の日曜日に、教誓寺の孟蘭盆会法要をお勤め致します。

定例の孟蘭盆会法要に併せて、昨年のお盆以降から今年のお盆までにお亡くなりになつた方々（新盆）の合同法要をお勤め致します。

法要の中で御法名をお読み致しますので新盆にあたられる方は、是非お参り下さい。

7月9日(日)

午後2時より

○ご一緒にお経を上げてお勤めいたしましたしように

お盆期間

7月13日(木)～

16日(日)

浄土真宗本願寺派 圓生山 教誓寺
108-0073

東京都港区三田 一十二-二十一

〇三(三四五)二三九

kvsj76@jsa.so-net.ne.jp